

作物残渣分解 + 土壤微生物性の改善に



バイオライザー®

(1) 成分

| 商品名 | 保証成分 | | | 含有成分量ほか | | |
|---------|------|-----|----|---------|-------|-------|
| | チッソ | りん酸 | カリ | 有機物 | 鉄 | pH |
| バイオライザー | 3% | 3% | | 69% | 0.20% | 5.5前後 |

<成分・内容>

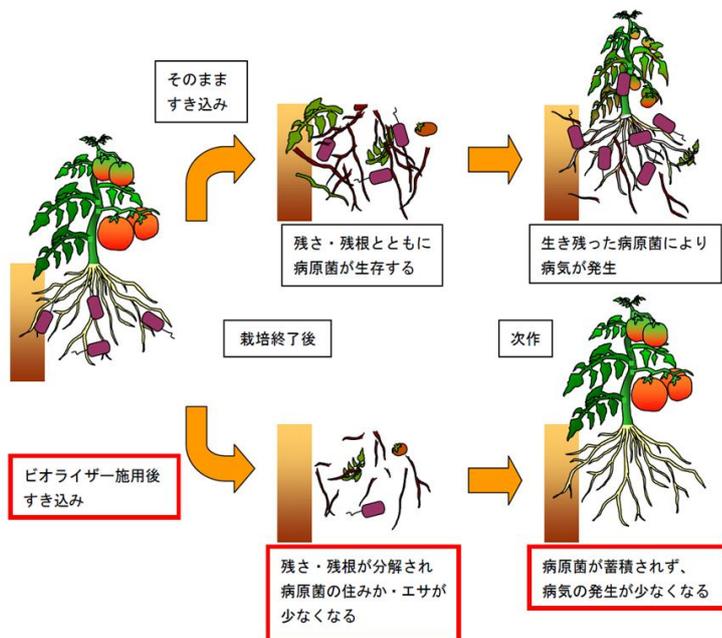
| 肥料成分 (N-P-K) % | 添加菌 | 性状 |
|----------------|----------------------------------|----|
| 3-3-0 | <i>Bacillus</i> sp. (細菌) 1種 | 粉状 |
| | <i>Paenibacillus</i> sp. (細菌) 1種 | |
| | <i>Priestia</i> sp. (細菌) 1種 | |
| | <i>Penicillium</i> sp. (糸状菌) 1種 | |
| | <i>Talaromyces</i> sp. (糸状菌) 1種 | |
| | <i>Zalaria</i> sp. (酵母) 1種 | |

(2) 特徴①: 作物残渣分解促進



3種の細菌: 適温30℃1種、50℃1種
1種の酵母: 適温10℃前後
2種の糸状菌: 適温10~30℃3種、30℃前後2種 ※上記参照
→低温、中温、高温で幅広い温度で活動

※添加微生物は、土壤・有機物から分離された菌 なので環境に対して悪影響を与えません。



《バイオライザーの特徴》

「バイオライザー」は作物残渣・残根の主成分であるセルロース、リグニンを分解する微生物を8種類培養した有機物分解促進材です。

10℃の低温から50℃の高温まで、幅広い温度域で高い有機物分解能力を持っています。

《バイオライザーの使い方》

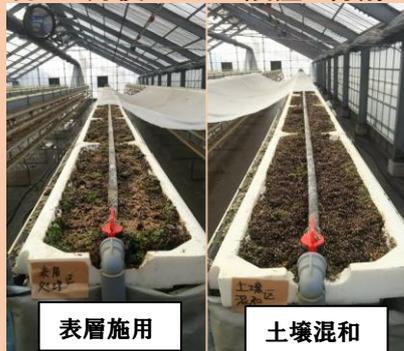
残渣・残根をすき込み時に**30~60kg/10a**を全面に施用し、一緒にすき込んで下さい。すき込みは収穫後できるだけ早いほうが効果的です。

2

【試験事例: 高設イチゴの残根】

【概要】

イチゴのプランターへ分解資材を施用し(30g/1プランター) 約1カ月後にイチゴ残渣の分解の程度を確認



- ① 表層のみ施用
- ② 施用後、培土と混和の2区を設定。

※保管期間中は、冬場のためビニル被覆を実施。

施用日: 12月20日
調査日: 1月31日

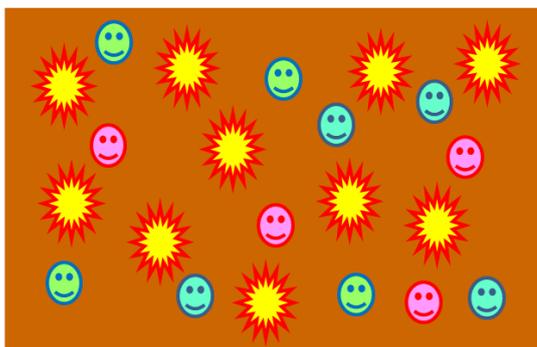


無施用より約1/4の重さまで分解が進んだ

(3) 特徴②:微生物性改善

土壤微生物の「陣取り合戦」

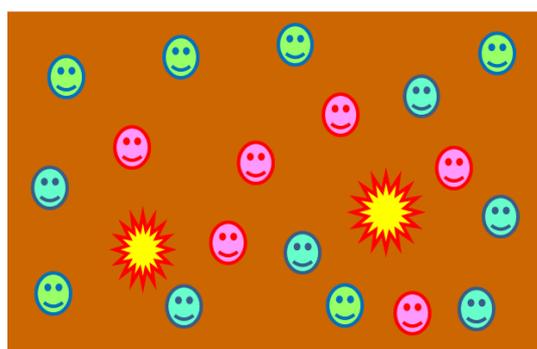
善悪多種多様な微生物



土壤消毒⇒微生物密度低下



有用微生物の投入



バイオライザー
の投入

土壤中の微生物の
“陣取り合戦”に先手！
有用微生物入り資材の
投入で土壤を満員に！

【試験事例:スプレーキク半身萎凋病対策】

スプレーキク:A氏圃場

【状況】

栽培面積:1,500坪

7月中～下旬を収穫予定が、ほぼ全て出荷不可(半身萎凋病)
→1作分収入がゼロ

※この前々作(11月収穫)も半身萎凋病発生、この時はいくつか
収穫可能の状況



前提条件

:作付前の土壤消毒処理を依頼
(クロルピクリンくん蒸剤)

施用量

:バイオライザー5袋(50kg)/300坪
:ソイルサブリPlus5袋(75kg)/300坪

資材施用日

:8月1日、最終調査日:11月4日



植え付け:31,000本(棟1+棟2)
収穫割合:約80%出来たとのこと
(約24,800本)
※前作は、収穫不可

(4) 施用基準量 (10a当たり)

30～60kg
(3～6袋)

「ソイルサブリPlus」と併用するとさらに効果的！
有用微生物のエサとなる有機質が豊富じゃ！

